

原発の再開は無謀！ 許されない！

第1回 『茨城の原発をなくそう 対策委員会』(7/28) 報告

大会で承認された福島原発事故と原発に対する対策委員会の第1回会議を開催しました。それに先立つ7月2日、第1回常任理事会で、原発問題に対する討議を深めました。7月14日(木)に準備会を開催し、委員会の名称を「茨城の原発なくそう対策委員会」とし、委員10名を選任しました。

水野・植田・伊達代表理事、加藤・川又常任理事、藤田・近藤・松原・川崎理事、木村事務局の方です。

「対策委員会」は、常任理事会の方針を受け、ニュースや学習資料、チラシ等をシリーズで作成・発行し、各平和の会・平和委員会の運動を支援します。今後のとりくみは以下の流れで進めます。『東海第二原発の廃炉をもとめる署名』用紙は、各平和の会(平和委員会)宛に送付いたします。

- 8月：「平和パネル展」、「学習会・集会」、チラシ配布、「署名」の取り組み。8月末に「常任理事会」を開催
- 9月：「学習会」・「署名」等の取りくみ、上旬に「理事会」の開催、チラシ配布
- 10月：「脱原発」を中心としたチラシ配布、「学習会」「署名」のとりくみ。「新聞意見広告」のとりくみ
- 11月：「学習会」「署名」のとりくみ。全県規模の「脱原発」集会。「新聞意見広告」の取り組みと掲載(予定)

常任理事会 (7/2)

で出された意見 (要旨)

*東海第二原発の20km圏には71万人の住民が住む。県庁も使えなくなる。東海原発は33年経過し老朽化も進んでいる。政府は原発の寿命を40年としているが、それを60年に伸ばそうとしている。許せないことだ。東海村議員17人中13人が原発賛成だ。しかし、東海村の村長は「東海第二原発は再開させない」と言っている。

*県平和委員会としての姿勢を示し、自前の運動をつくっていくことが重要だ。学習会等は、地域を中心に何度でも開催して

【東海第2発電所】



いくことが運動の広がりを作ることになる。下からの積み上げを進めていくなかで、他団体に働きかけることが必要だろう。地域の運動の積み上げで運動が進む。まず足元からやっていくべきではないか。

*大会決定どおり、常任理事会の責任で対策委員会を立ち上げ、主体的にとりくんでいく。対策委員会で協議され決定したとりくみについては、常任理事会が責任を持って実行に移す。対策委員会は常任理事会に提言する役割として組織する。

*茨城平和委員会は、東海第二原発の廃炉を実現する取り組みを通じて、原発をなくそうと言う全国の取り組みとに寄与していく。

*署名運動等をやるなら、目標を立て、必ずやりきる必要がある。ただやればよいというわけにはいかない。誰もがとりくみに参加できて、みんなで運動をつくりだしていくことが大切だ。対県交渉も行なう必要がある。

安全神話が崩壊している。多くの国民の気分にあった訴えをしていかななくてはならない。原発に利権のない人たちの多くが、原発維持・推進に反対している。一方マスコミを通じて、「電気代が高くなる」や「電気がなくなる」などの宣伝・脅しもやられている。住民が一番知りたいことを、絵やグラフ等で具体的に示すことが重要だ。原発の稼働に関する現在の動きは、原発推進者勢力も、地域の住民が反対したらどうにもならない。原発をなくすためには住民の気持ちを変えられるかどうかがかぎになる。内容をよく知らない人でも「ああ、そうだったのか」と、ストーンと胸に落ちる内容で訴えられるよう考える。

対策委員会は、①東海原発を廃炉にするためのとりくみ

- ②原発の電気は安くない
 - ③原発の発電がなくても電力は不足しない
 - ④自然エネルギーは不安定か
 - ⑤発電コストの問題
 - ⑥「発電」と「送電」の関係
 - ⑦地震と津波に対する備え
- ・・・などを中心に考える。

草の根 原発学習会

7/17 つくばみらいで約60名参加

7月17日(日)、谷井田コミュニティセンター・多目的室で原子力の専門家を講師に迎えて学習会を行いました。

平和の会は憲法改悪反対、核兵器廃絶、平和行進など平和学習・活動をしてきましたが、原発事故・放射能問題も市民の平和な生活のため看過できない問題と初めての学習会でした。

市議4人を含め六十名弱の参加者で、会場からの多数の質問がありました。市内の放射線の量が高い中、若いお母さんから子どものプールや食べ物など切実な話がありました。実りある学習会になりました。

7/16 鹿嶋で約40名参加

「鹿嶋九条の会」主催の原発事故の学習会は、鹿嶋コミュニティセンターで行なわれ、県平和委員会常任理事の加藤岑生さんが講師でした。加藤さんはパワーポイントを使い、原子力エネルギーの初歩、福島原発の事故の状況と放射線被害、脱原発の方向など、約2時間に渡り、分かりやすく進めました。

参加者からは、「放射性物質を消す方法はないのか」や、「煙草を止めて1年半経つ。病院で健康診断をしたら、血管年齢や骨密度はグーンと改善された。でも抗酸化力(病原菌をはねかえす力)測定値だけが格段に低くなった。なぜか?」と思い聞いてみたら『ああ、福島と茨城の人は仕方が無いです。放射能の影響です』と言われた。私たちは被爆者になったということを実感した。」など、怒りの意見がだされました。

平和新聞

2011年8月5日(金曜日)

1963号(毎月5,15,25日発行)

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版 平和新聞茨城版 No. 601

発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
2011.8/5
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

土浦で東海原発ポスターを作成！

土浦平和の会では、運転開始後33年も経ち、老朽化した東海第二原子力発電所の今年11月に予定されている運転再開の危険性を訴えるためにポスターを作成しました。

東海第二原発

危険

運転再開を許さず、廃炉に

マグニチュード8クラスの巨大余震

・津波で全電源喪失の重大事故に

避難地域の20km圏内には県庁所在地の水戸市のほぼ3分の2が含まれている

2004年のスマトラ沖地震では3年後に、マグニチュード8.4の余震が起こった。

すでに運転開始後33年、老朽化の症状も顕著

3. 11大津波では、あと70センチ高ければ、海水は防波壁を乗り越えすべてのポンプが水につかるとみられ、「(冷却機能が全て失われた)福島第一の事態になった可能性は否定できない」(日本原電)という状況でした。



茨城県平和委員会

・土浦平和の会

東日本大震災・福島原発パネル展

8/1～12開催！ 石岡平和の会

石岡平和の会主催の「東日本大震災・福島第一原発事故と津波被害写真展」を8月1日より、小美玉市庁舎ロビーにて開催しています。期間は12日までの予定です。



【小美玉市庁舎ロビーにての写真展】



[シリーズ] わが街・わか会員

水戸市 / 秋山 さよ子 さん (水戸・青年)



私は祖父母と同居していたので、小さな頃から2人の戦争体験を聞かされていました。それとセットで教えられた「命を粗末にはいけない」という思想でした。このことが私の平和運動の原点になっています。

私が特に関心を持っている平和問題は、核兵器廃絶と朝鮮半島統一です。”核兵器廃絶はヒバクシャが生きている間に、朝鮮半島統一は民族分断を経験している世代が生きている間に実現させる”をモットーに平和運動に励んでいきたいと思っています。

趣味：映画鑑賞（韓国、イランの作品が好きです）。余裕のある時は舞台を観に行ったりもします。旅行（5月にバックパッカーデビューを果たしました）。近況：手仕事を始めました。今のところ糸や紐で小物を作っています。着物を縫えるようになるのが目標です。

『高江に米軍「ヘリパッド」はいりません』パンフ

いのちの森、世界の宝、平和な生活を壊さないで

沖縄県統一連（安保廃棄・くらしと民主主義を守る沖縄県統一行動連絡会議）作成の「平和パンフ」が出来ました。全16ページです。

県平和委員会では、600部注文しました。各平和委員会には、無償で5部ずつ送付します。学習会などで活用してください。

残る400部は、各平和の会・平和委員会の「パネル展」や「学習会」、「チラシ配布」、「署名活動」等で販売・活用してください。1部30円で卸しますので、積極的な活用をお願いします。



そこが問題！

「電源三法交付金制度」

原子力推進の財政面での支援を、名目に

いわゆる電源三法とは、1974年6月3日に成立した次の3つの法律から成っています。

- ・電源開発促進税法
- ・電源開発促進対策特別会計法
- ・発電用施設周辺地域整備法

この仕組みは、まず電力会社からその販売電力量に応じて電源開発促進税を徴収する。この電源開発促進税は、われわれの払っている電気料金に加算されています。これを財源とした交付金で、発電所周辺の立地環境を整えるとの名目で、早い話、原発の立地市町村にカネをバラ撒くわけです。2011年度予算では、一般会計、エネルギー対策特別会計の電源開発促進勘定を合わせると4000億円以上が、原子力関係に投下され、そのうちの四分の一余りが電源立地地域交付金として、原発周辺地域へのバラマキに使われることになる。この「電源三法交付金」の仕組みこそが、日本を「世界で最も高い電気料金の国」にさせている所以です。 集英社新書【原発の闇を暴く】より